

# 水稻種子処理 日本で普及

## 薬剤使用量を大幅低減

バイエルクロップサイエンス（東京都千代田区）は、水稻種子処理技術の普及に力を入れる。あらかじめ種もみ（種にする米）に種子処理剤と種子被覆剤をコーティングすることで防除効果を付与し、種まき後の防除作業を簡略化できる。処理後6〜9カ月間保存できるため、農閑期である冬に作業を行い、繁忙期である春に備えることで、年間における農業の平準化を図れる。種子処理剤の使い方次第で、箱粒剤と比較して薬剤使用量を90%以上削減できるとしている。散布量の適正化や収益性の向上、省力化、環境性を訴求し、日本の水稻農家に種子処理技術を浸透させていく。

と同等の病害虫駆除効果や残効を發揮する。農閑期に塗抹すれば有効性に より田植え後の本田でも病害虫を防除できる。ほ場の環境や品質の特徴などを考慮し、防除ニーズに合わせて薬剤をコーティングしていく。いもち病や紋枯病、初期害虫など主要な病害虫に応じて薬剤処理された種もみを選択できる。各ほ場に最適な防除を可能にするため、農業使用量の適正化を図れる。ひいては省コスト化、農家の持続可能性向上につながる。

種子被覆剤を併用するソリューションに強みがある。移植栽培と直播（じかまき）栽培の双方に対応している。同社は「移植栽培では箱処理剤からの切り替えを推進する（同社）考えた。塗抹作業はシンプルであり、一例としてコンクリートミキサーを使う手法がある。コンクリートミキサーに種もみを薬剤とともにに入れて回転させ、その後乾燥させるといった簡便な作業で塗抹作業は完了する。投入量は20kgを推奨している。

くりに農薬をまく作業を省力化できる。長い間効果が続くため、農閑期である冬の間種子処理を行うことで、春の繁忙期に備えられる。とくに、多くの水田を取り扱う大規模農家や農業法人に適したソリューションといえる。農業法人では年間の作業量分散化することで栽培面積を広げられ、事業規模の拡大を図れるという。種子処理技術では、あらかじめ種もみに種子処理剤と種子被覆剤を散布す。吸水時に薬剤が内部に取り込まれる。浸透移行性薬剤として箱施用剤

と同等の病害虫駆除効果や残効を發揮する。農閑期に塗抹すれば有効性に より田植え後の本田でも病害虫を防除できる。ほ場の環境や品質の特徴などを考慮し、防除ニーズに合わせて薬剤をコーティングしていく。いもち病や紋枯病、初期害虫など主要な病害虫に応じて薬剤処理された種もみを選択できる。各ほ場に最適な防除を可能にするため、農業使用量の適正化を図れる。ひいては省コスト化、農家の持続可能性向上につながる。

種子被覆剤を併用するソリューションに強みがある。移植栽培と直播（じかまき）栽培の双方に対応している。同社は「移植栽培では箱処理剤からの切り替えを推進する（同社）考えた。塗抹作業はシンプルであり、一例としてコンクリートミキサーを使う手法がある。コンクリートミキサーに種もみを薬剤とともにに入れて回転させ、その後乾燥させるといった簡便な作業で塗抹作業は完了する。投入量は20kgを推奨している。



バイエルクロップサイエンスの種子処理技術「バイエル シードグロース」は、稲の種にあらかじめコーティングする新しい技術だ。従来、苗を育てる箱に農薬をまいており、その作業は多くの工程を要し手間のかかる作業だった。種子処理技術を導入すると、苗つ

くりに農薬をまく作業を省力化できる。長い間効果が続くため、農閑期である冬の間種子処理を行うことで、春の繁忙期に備えられる。とくに、多くの水田を取り扱う大規模農家や農業法人に適したソリューションといえる。農業法人では年間の作業量分散

くりに農薬をまく作業を省力化できる。長い間効果が続くため、農閑期である冬の間種子処理を行うことで、春の繁忙期に備えられる。とくに、多くの水田を取り扱う大規模農家や農業法人に適したソリューションといえる。農業法人では年間の作業量分散

くりに農薬をまく作業を省力化できる。長い間効果が続くため、農閑期である冬の間種子処理を行うことで、春の繁忙期に備えられる。とくに、多くの水田を取り扱う大規模農家や農業法人に適したソリューションといえる。農業法人では年間の作業量分散

くりに農薬をまく作業を省力化できる。長い間効果が続くため、農閑期である冬の間種子処理を行うことで、春の繁忙期に備えられる。とくに、多くの水田を取り扱う大規模農家や農業法人に適したソリューションといえる。農業法人では年間の作業量分散

水稻種子処理技術をコスト・環境面でも訴求していく（種子処理乾燥後の様子）

され、21年に本格的な展開を開始した。実績は毎年増加傾向にある。研究所で確認した安全性や効果をここ数年、農地で確認できた（同）として、数年の実績を基に、さらなる普及につなげていく。